

新撰地理小志

山田行元編

元

287  
19

B

5

7

10



山田行元編

元卷

# 新撰地理小志

香風館藏

定價金拾錢

## 新撰地理小志小引

予明治元年を以て初學地理書と命つけたる一篇の地志を刊行し既四方  
 已用ひしものと雖予は竊に其旨趣濶泊過ぎく未兒童貪知の性と廢らし  
 しかる事憂ふるごとく憾む故に今更其體裁を變じ近來歐米諸國を行  
 った新撰の小學地志を倣ひて此新撰地理小志を編せり即其大體は先兒童  
 の取厭ひ易き地理學の義例用語を篇首に論ずることと止め問を予が掌  
 上より置ける地球儀を發し其地面の大勢を論ずるは我輩の居住せる地面の  
 一點より説き起し漸く世界の廣大なることと諭し其世界の運動晝夜及  
 四時の變化等を論ずるは一々兒童の才智を應可き適例實況を擧げること  
 を説示し遂に世界の五種の人民のりてられ住し此人民相集むる多く  
 の國を成その一段及び更に更に我輩の自國ある日本を約して五畿  
 八道の地理を論し再之を博めて世界各國の地理を論し其局を結ぶる者ふ  
 り文章の意味洞徹して予解易むらんことと欲し且各國志の如きも亦地  
 理志の本體より多く地圖を掲載し難き事實を記載することと旨とし其事

新撰地理小志

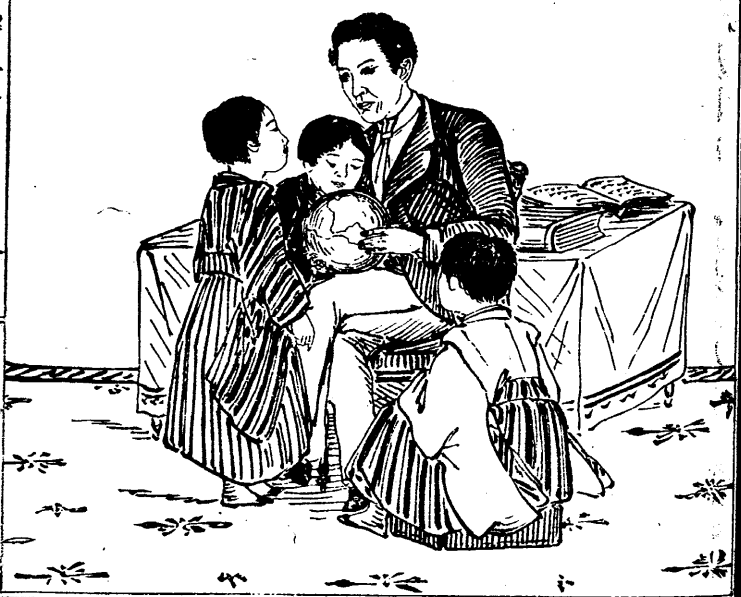
香風館藏

ハ務めて児童の意に適し可き珍奇愉快の者せ記せり然まども其骨子と成  
 る所ハ一として地理學上の定則確説は據らざるハあく義例用語解の如き  
 ハこれと篇首を載せざると雖亦書中在る所は随ひて其義理を釋明せんバ此  
 書を學ぶ児童等其厭ふ可き者と見どしく自益を收むるに至らんこと疑無  
 し予が編書の主意幸々四方教育家の持論に適しく小學教科の缺を補ふこ  
 とを得ハ亦以て予が編纂の苦心を慰むるに足らん

此書の楮數限らば記事節略せる者多し學生既ハ此書を通讀せる後ハ更  
 ハ予が編次せし中地理書を就きて詳細ハ各國の疆域形勢物産民俗都邑政  
 府及宗教史記等の説と講究せんとし又此書を教授せる者ハ書中ハ挿入せる  
 所の地圖を以て地理を丁寧ハ説示し更ハ予が編製せし暗射地圖を就きて  
 地理を暗射せしめ學生の地理の記憶を鞏固あらしむること注意を可し

題首

地理之爲學。其用極廣  
 矣。航海通商軍旅。不審  
 地理。則不能焉。務農業  
 事經濟者。不知地理。則  
 不能焉。或學地質動植  
 礦物。或講歷史法律政  
 事者。不通乎地理。則其  
 旨不明。天下之學。固不  
 一而足矣。然其最要且  
 有益者。未有愈於地理  
 學者也。學者豈可忽乎。



新編地理、居食、第九

新撰地理小志卷一

山田行元 編

第一章 世界

汝余が手は持てる物と見よ。此球形の畫ハこれと地球儀と稱へ。即世界の形は擬へて。其外面の有様と畫きたる者あり。然まども世界と云へるハ。我等が住居たる廣大の地面のことにて。其實斯の如く小き物ハ非ざるあり。

余が此家ハ我等數人を容るるは足り。家を繞まる庭園も廣うと爲まば。然まども出て門外を望めば。他は夥多の家屋と庭園ありて。先は廣しと爲せる者も。僅は我郷の一小隅たるは過ぎざるはとぞ知らん。

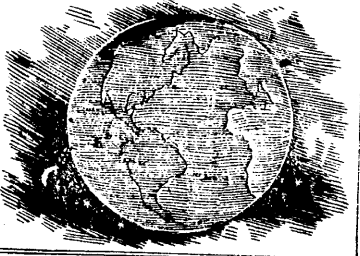
更は又高丘は登りて。遠く望む時ハ。廣大ある原野。渺茫として極まらなく。或ハ山嶺遙は雲際を連まらりて。我郷の如きも。亦唯其地方一點の地は過ぎざることとぞ知るは至らん。

然るは此廣大ある地方と雖。畢竟我日本ニの一小隅たるは過ぎざる。我日本ハハ。方一里の地凡二萬四千八百區あり。我日本ハ。斯の如く廣大あれども。更はこまきと世界の大有るは比ぶる時ハ。其小きこと。恰橙子の皮面ある一凸處の如くある可し。

然きバ世界の廣大あることハ。實ニ物の比ぶ可き  
く。其周リハ。凡一萬百四十四里。ゆりて。汝日ハ十里づ  
つ旅するとも。殆三年の月日ヲ費すハ非ズルバ。これ  
セ一周するること能もざる可し。

故ニ我等の眼ハ。唯世界の一小部のみヲ見る可  
く。其全形ヲ見ることに能はず。然  
ども。我等が見ることを得可き他の  
世界あり。月即是あり。月ハ天空ニ懸  
り。下よりこれヲ支ふる者あらずして  
落ち也。我世界も亦月の如く。下より  
これヲ支ふる者あらずして落ち也。其

天空ニ懸る地球



教師地球の圓形ある證據を擧ぐ可し

形も亦月の如く圓あり。故ニ月の世界ハ人ありて。我  
世界ヲ望まば。其觀恰我等が月ヲ觀る如くある可し。  
月の世界ハ。我輩其委まきヲ知ること能はず。然もども  
我世界ハ。親ク各地ニ遊歴し。其形勢風俗等ヲ觀察  
するることを得可し。是地理の學ゆる所以あり。

第二章 世界の續

我世界ハ在りてハ。日の出づる方ヲ東とし。日の入る  
方ヲ西とますること。顧みば汝これヲ知らん。更ニ又日  
の中なる方ハ南として。日中萬物の影の指す方ハ北  
あることヲ記せよ。東西南北ハ。これヲ四方と稱ふ。又  
西と北との間の方角ハ。これヲ乾と稱へ。西と南の間

尚磁針を以て指せよ

ハこれヲ坤と稱ヘ東と南の間ハこれヲ巽と稱ヘ東  
と北の間ハこれヲ艮と稱ふるあり。

太陽ハ日々東天より現れ輝々たる光彩ヲ放ち遂  
ニ西天ニ隱れ汝これヲ見て太陽我世界の周圍ヲ回  
行する者とせん然まども其實ハ否らば我世界こそ  
太陽ニ向ひて西より東の方へ回轉する者あり而し  
て其一度回轉する時間ハ二十四時即一日として球  
形ある世界の兩面更々晝夜とある者とは汝一穗の  
燭火ヲ取ると地球儀ヲ照らせば其半面ハ燭光ヲ受  
けて明のよ半面ハ暗きと見ん又徐々地球儀ヲ轉回  
せば前と異り其暗き所ハ漸く明か其明かある

所漸く暗くあると見ん世界晝夜の變化ハ恰是の如  
し。

又亞米利  
加とも書  
す

故ニ我國ニ在りて太陽既ニ西天ニ没し人々漸く卧  
床ニ就くの頃ハ當りて我と反對ある亞米利加の某  
の國ニ在りて旭日始めて光ヲ放ち兒童等相伴ひて  
學校ニ登り學習ヲ爲し或ハ遊歩ヲ爲すの時あるべ  
し。

世界ハ一處ニ止まりて回轉する者ニ非ず又自回リ  
あつて太陽の周圍ヲ運行し三百六十五日即一年の  
間ニこれヲ一周する者として其狀恰獨樂の回リ轉リ  
て環の形ヲ爲すに如し是ニ於て汝ハ我世界の二

新撰地理小書 卷一 四

地運儀と  
以て指教  
せよ

新編地理志卷一

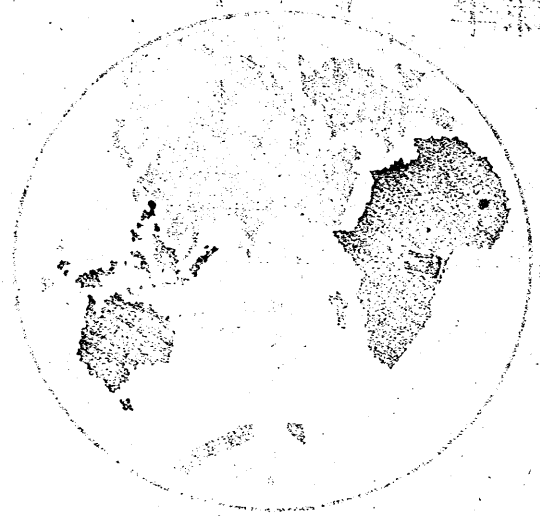
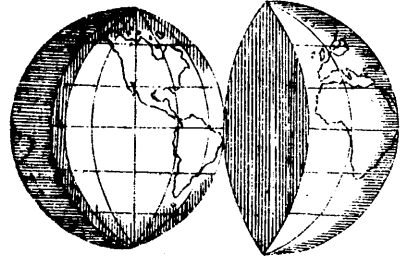
種師補註

種の運動はることを知らん。

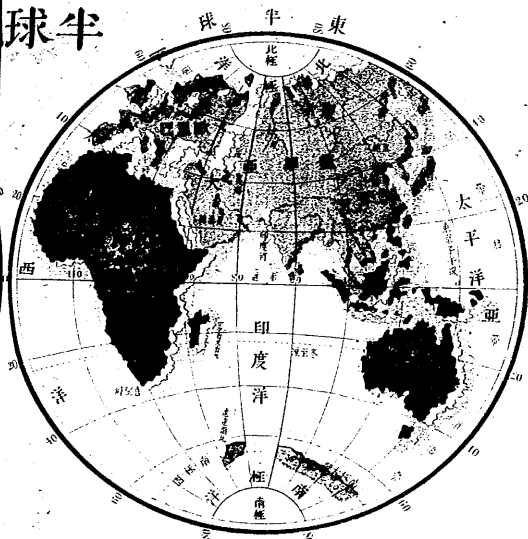
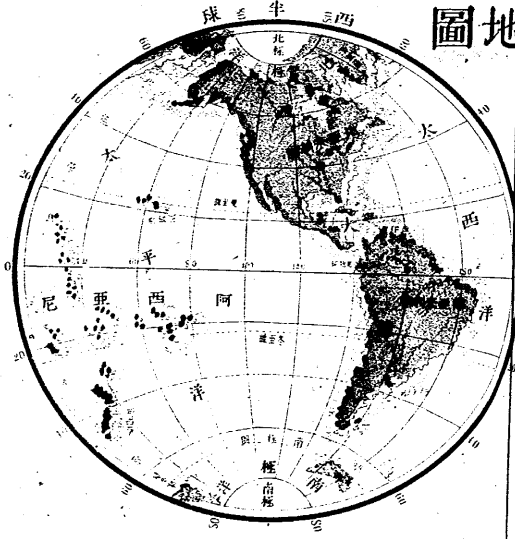
### 第三章 世界の續

余今汝が爲に世界の圖を顯せしめて其有様を示さんとす。然るに書籍の紙面は圓形ある此地球儀を置くこと能わざるを如何せんや。依りて余は地球儀の真中より二つに割り割る所の平面に兩半球の地圖を描きて汝に示さんとす。

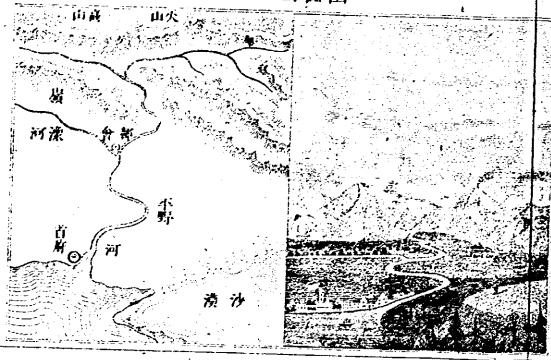
地球儀を割るて半球の圖を製せよ



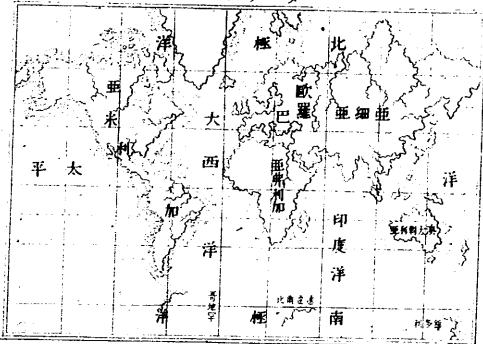
# 半地球圖



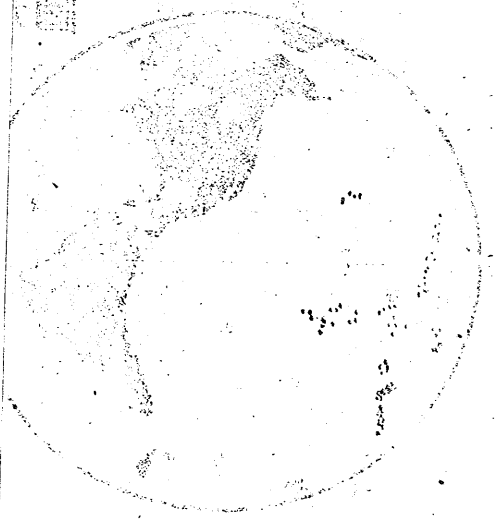
照對圖



式圖多加來







余が半球地圖を見よ。地圖中某の部は。五彩で色どり。其の部は白きを見ん。其彩色せる所は陸よして。白き處は水あり。地圖の方角は。常に頂上を北とし。右方を東とし。下底を南とし。左方を西とある者と知るべし。兩半球は。一は東半球と稱へ。一は西半球と稱ふ。東半球は。東大陸南大陸及無數の島々あり。大陸とい。廣大なる陸地の義よして。島は陸地の小なる者の名あり。

東大陸は。亞細亞歐羅巴及亞弗利加と稱ふる三大洲の區別あり。亞細亞は大陸の東北部よして。蒙古人種多く此に住む。蒙古人種は又亞細亞人種とも稱へ。

皮膚黄色と帯ぶ。余等日本人ハ皆其種あり。亞細亞ハ人類の始めて生育せし所よして。古代ハ隆盛ある邦國なりし所あり。土地最廣く。人口も亦最多し。

歐羅巴ハ亞細亞の西ニ在リ。高加索と稱ふる白人種の住居する所あり。土地最小なれども。人民多くハ智識ニ富み。工藝ニ巧よして。壯麗の家屋ニ住み。輕暖の衣服と著け。鮮美の食物と食ふ。これと當今世界中の樂土と稱ふる可し。

亞弗利加ハ大陸の西南部ニ在リて。大なる半島の形と多し。半島とハ。周邊殆水ニ圍まれ。地面の一方僅ハ大地ニ續きたる者と云ふ。此洲ハ。以日阿比人と稱ふる黑人種の住居する所あり。

南大陸ハ。其東北ニ散布する無數の島々を併せ。阿西亞尼亞と稱へ。區域兩半球ニ跨る。此洲の某の島ハ。馬來人種と稱ふる棕色の人民なり。

西半球ニ在リて。長く南北ニ延びたる陸地と西大陸と稱ふ。亞美利加是あり。亞美利加ハ二千百五十二年ニ當リ。歐羅巴の人閣龍が見出たる所と云。閣龍ハ當時僅ハ三艘の小船と率ゑ。踏も習もぬ。茫々たる大洋ニ。數月の航海と爲し。世人の夢にだと思はざる。新大陸と見出したる。希世の豪傑あり。

亞美利加ハ時としてハ新世界と稱ふ。是閣龍が亞美

利加を見出す前より。人は知らざりたる東半球の大陸  
也。舊世界と稱するは對する語あり。

亞美利加は。印甸と稱する銅色人種なり。彼等ハ樹  
林の中は住み。漁獵を以て生計を營む。然るは當今ハ。  
高加索人種此地は繁殖し。此人種を見ること漸く罕  
あるに至り。

亞美利加ハ。近來世に出でたる新世界ふれども。此地  
は移住する人民ハ。概歐羅巴の人ありを以て。當今  
ハ舊世界ハ抗ふべき程の權力を有し。中には北亞美  
利加の人ハ。最開化は進み。最幸福を得たり。

是は於て。汝ハ世界中は東西及南の三大陸あり。三大

高加索人



蒙古人



以日阿比人



印甸



馬來人



陸及無數の島々ハ。更ニ亞細亞歐羅巴亞弗利加亞美  
 利加及阿西亞尼亞の五大洲ニ別キ。蒙古高加索以日  
 阿比。印甸馬來の五人種ヨリテ。此ニ往することヲ知  
 里タル者ハ。然ルニ水にも亦五つの大區別ヨリテ。  
 亞細亞の東亞美利加の西あると太平洋と云ひ。亞細  
 亞の南あると印度洋と云ひ。歐羅巴亞弗利加と亞美  
 利加の間あると大西洋と云ひ。北極の邊ヨリると北  
 極洋と云ひ。南極の邊ヨリると南極洋と云ふあり。  
 洋とい。水派洋々極まるる所セ云ふ。其較狭き所ハ。  
 別ヨリと云ふ。海と稱ふ。洋海の水ハ。皆鹽分セ含み。又潮  
 汐と云。一晝夜ニ二回の満干ヨリる者あり。

此陸地と水とセ較ぶる時ハ。水の陸よりハ。迥ニ廣ク  
 一。大略三と一との比例の如し。此他尚世界の北と  
 南ニ極まる所ヨリ。水ヲ將陸ヨリセ詳ニセざる處ヨリ。  
 然るニ近來南極の周邊ニ於テ。維多利亞哥拉罕遠達爾  
 比等の陸地セ發見シ。ことセ南極大陸とい名づけた  
 リ。  
 此陸地と水底とい。凹凸一様ナク。陸地ヨリテ高  
 きハ山或ハ丘と云ひ。低きハ谷と云ひ。谷ヨリ流ル  
 る水セ河或ハ江と云ふ。水底ヨリテハ。高低と云ハ  
 ず。浅深と云ふ。即水底の高き處ハ浅く。低き  
 處ハ深きあり。

新編地理の志 卷之三 水底の高低

第四章 世界の續

汝の前の地圖上は多くの縦横線を畫せしむるを見ん。其東西は通るたる横線はこれと緯線と稱へ。南北は通るたる縦線はこれを經線と稱ふ。是世界の素球形なるより由り。斯の如き想像の圈線を畫きて。水と陸との位置を定め。其距離を度より便りする者より。地圖を描くに。最要用の者なり。

又汝は緯線の中央は東西は通るたる一線ありて見ん。是地球の真中を横截するたる大圈より。これを赤道と名づく。又地球の北は極まる所。即北辰星下は當りたる一點は。これを北極と名づけ。其反對の處は

これを南極と名づく。地圖上は在るを。

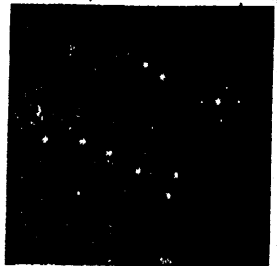
經線の一點は湊合する處は。即此二極あり。

經線及緯線は地球を三百六十度に分ちて畫きたる者あり。緯線は赤道

と元として。北緯幾度南緯幾度と數へ。經線は日本より。東京子午線と元として。東經幾度西經幾度と數ふる者あり。但前の地圖はこれを略し。二十度毎に一線を畫きたる者あり。

汝は地圖上は於て赤道の南北は尚四條の點線ありて見ん。其赤道の北は在る二線は。夏至線と北極圈は

北辰及七曜星



尚半球儀  
を以て指  
教せんこ  
とを要す

く。南は在る二線は。冬至線と南極圈あり。

斯の如く説き来らば。汝等或は地圖上の線は。何きも

現は圈とある者なきことを怪む者ありん。是其理ふ

る。此地圖は。前にも説きたる如く。半球に分てる者な

るを以て。其圈線も亦自半圈とあることと得と

るあり。

### 第五章 世界の續

夏至線と冬至線との間の。熱帯と稱ふ。亞細亞の南端。

亞弗利加。亞美利加の中央部等是あり。熱帯とい。氣候

炎熱ある地方の義にして。年中酷暑燻く如く。唯乾濕

干候の變化あるのみあり。

夏至線より北極圈に至るまで。北温帯と稱ふ。冬至

線より南極圈に至るまで。南温帯と稱ふ。亞細亞歐

羅巴の廣遠ある地方。亞美利加の北部及南部等是ふ

る。温帯の氣候温和ある地方の義にして。一年は春夏

秋冬の四季あり。

温帯中の諸國は。春来まば。氣候漸く暖う。草木芽を

萌し。百花笑を含み。雁の寒地を尋ね去り。燕の暖所

を逐ふる来り。禽鳥聲を弄し。偶々求め。巢を造り。満目

の春光實は愛す可く。人の野は出で。田を耕し。種を

下す。

晝漸く長く。氣候漸く熱し。是陰夏の時あり。觸目の光

十一

景是至マク變じ草木榮せ競ひ花ハ實せ結び鳥ハ  
雛せ孵して巢せ辭し人の稻田せ耘り隴麥せ刈る  
氣候又一變し晝漸く短く夜隨ひて涼しく燕去り雁  
来り兒童ハ果實の熟するせ悦び農家の收穫ハ忙し  
く露結び雲凍マク草木漸く黄落せ是恰秋の時あり  
冬隨ひて来まば水ハ氷せ結び滿地時は白毛の大羅  
璣せ敷き北地ハ至まば人家全く雪ハ鎖せ人の火  
爐せ擁して暖を取る然まども寒氣極まれば陽氣復  
り恰寒梅花綻ぶるの時ハ及ぶ是四時變化の概況  
也。

又北極圏と北極との間ハ北寒帯と稱へ南極圏と南

極との間ハ南寒帯と稱ふ亞細亞亞美利加の北端等  
是あり寒帯とい氣候寒冽ある地方の義マシて一年  
唯夏冬の二季あり極ハ近き所ハ冰雪終古消ゆるこ  
となく而して其夏時ハ長き晝にして冬時ハ長き夜  
あり。

是ハ於て汝ハ世界ハ熱帯北温帯南温帯北寒帯南寒  
帯の五帯ありことと知らるるらん然まども汝ハ  
温帯ハ氣候一樣ハ温和ハ熱帯ハ至まば俄ハ熱ハ寒  
帯ハ入まば忽寒ま者と思ふこと勿き五帯の別ハ唯  
其大概を示すのみマシて氣候ハ概赤道せ遠ざける  
隨ひ漸次ハ熱度せ減する者と云。

然るも。氣候異ふれば。人類。鳥獸草木も亦隨ひて異同ふまこと能ふ。今其大略を汝に語らん。熱帯の人。性質懶惰よく。生業を勉めず。多くは茅屋に住み。裸體を常とし。天然に成熟する果實を食ふ。此地方は。野獸の猛き者。肥蟲の毒りる者。鳥類の麗しき者多く。植物の生長殊に盛なり。

三帯の風景



温帯の人。身體健よく。智慮深く。木造石造等の美麗なる家屋に住み。絹布毛布等の輕暖なる衣服を著け。獸類にも。馬牛羊等の有用なる者多く。又多く穀物果物を産む。

寒帯の人。毛皮の衣服を著け。幽暗不快なる矮屋土窟に住み。性質愚鈍なり。此地方の人の衣食とある物より。羆馴鹿及鯨海狗等の海獸より。植物に至るまで少し。

世界の各所より。又礦物は。皆地中より得る所の也。



のほそ。其貴き者也。金銀鐵及金剛石紅玉青玉等と云。又石炭の燃して薪を充て。或は氣燈を製し可き要用の礦物あり。

今世界の談話を終るに臨む。更は汝を問ふ可きことあり。汝は曾て親しく世界の一部分を見しことありや。又世界の球の如く圓なる形を見しことありや。又地理學とい。如何なる學問なるや。

月面の影  
等より  
て證據を  
立つべし

第六章 各國志緒言

余の前は世界あり。五つの大洲あり。五種の人民。此は住居することと汝は語まり。今余が此五大洲と五人種を就きて。更は何如ある事を説き出するを聴け。抑此五大洲と稱ふるは。廣大なる世界の陸地を。五分ちたる者あるを以て。廣きは三千餘里あり。狭きも尚千餘里あり。人民は。僅は五種を過ぎざれども。其數は至りて。大略十三億以上を登まり。

此人民は。互に相集りて。大洲中某の地方に住きて。遂は一國を成し。當今に至りては。著名なる邦國凡三十餘あり。我日本の如きも。亦其中屈指の一國あり。小國

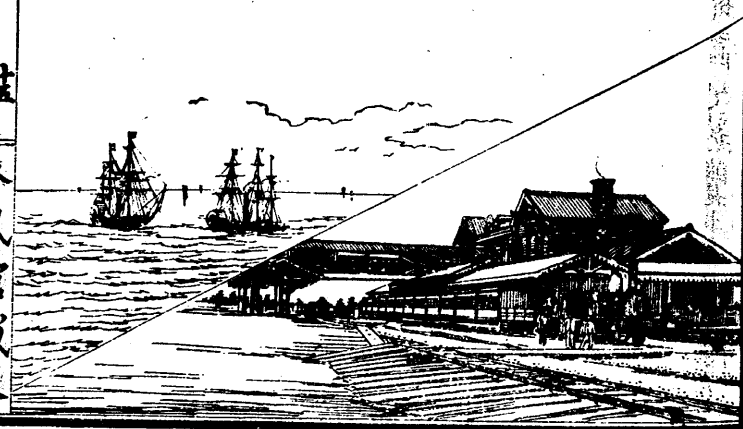
部落をふせる者其數甚多し。余是より各國志の談話  
を始め其地理風俗等々汝に語らんとす。

此等の國々の間には概海山等の障塞を爲せる者  
を以て古代は在りては各國の人民交通の境甚狭  
く中にも東洋人と西洋人との如きは海山數千里の  
路を隔つるを以て三百餘年前までは全く交通を爲  
さざりしあり。

然るに昔の人ハ地の圓きも知る由なく或ハ大地  
を平面として方形ある者と考へ或ハ巨大なる龜の  
背上に立ちたる四箇の象頭を以て支ふる半球形の者  
と想像せしと云ふ話あり。

然るに近來人の智識大  
に進むに隨ひ暫時は數  
百里を走る汽船汽車等  
を造り出さるや斯く  
許り廣大なる世界も今  
ハ容易くこれを一週す  
るに至り日本より歐羅  
巴に至るまでハ海路大  
略四千餘里を隔つまじ  
も四五十日を以て得  
て此に達することを得

汽船及汽車



可きあり。

汝若時を得て。世界を周遊せば。或時の高山に登り。大江を渉り。或時の人煙繁盛なる都會を過ぎ。風光秀麗なる山水を探り。或時の古人の遺蹟を訪ふこと。いづらん。而して汝が至る所の國。人其俗を同くせば。鳥獸草木亦目よ新なる者多きを見ん。然らば。世界を遊行するの愉快あること。果して何如ぞや。然まども幼穉の身にても。世界を周遊するること容易あらざれば。暫く余が各國志の談話を聽きて。満足せむといはるべし。

汝地理を學ぶんと欲せば。先地圖を熟覽して。水陸の

位置山河の形勢等を察せべし。地圖中には記載するもの便あり。ざる者ハ。余各國志に於てこれを語らん。

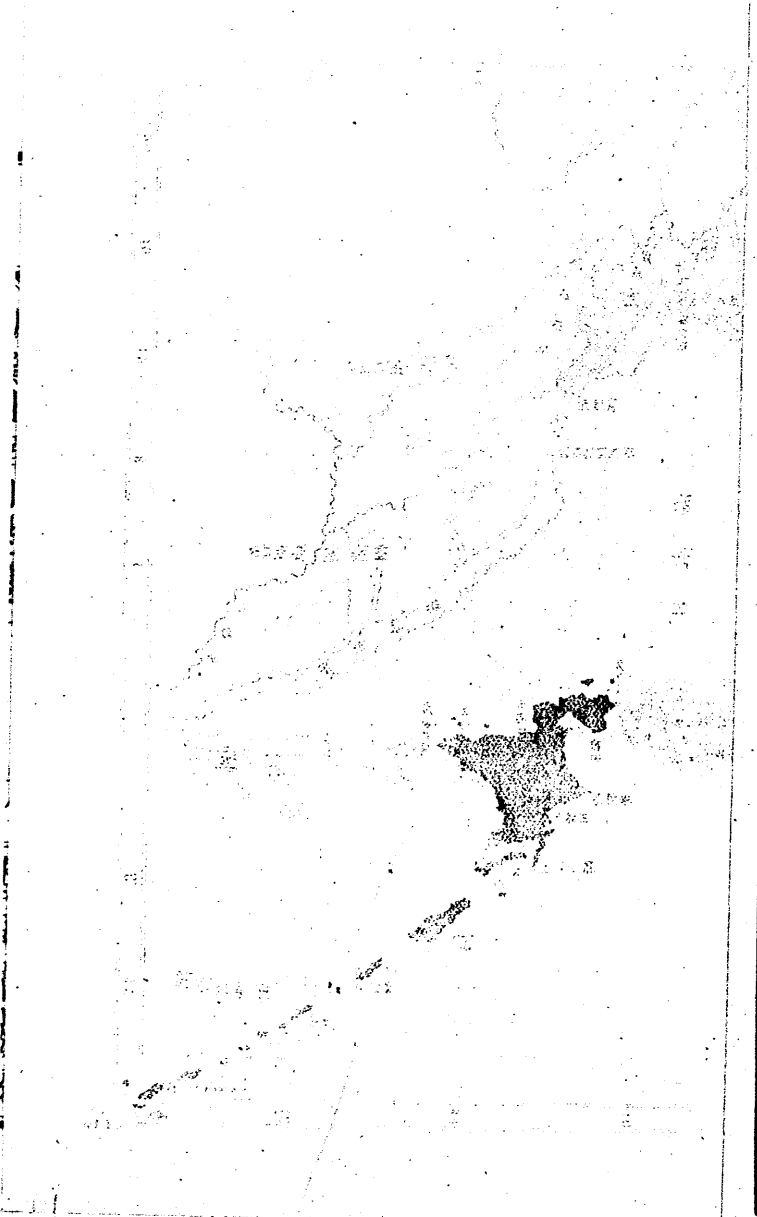
地圖の中。中心一點の白き所を存し。其四邊は黒線と密畫せる者ハ。天邊より瞰下むごとく如く。山岳を圖せし者あり。即其白き所ハ。山頂よし。四邊の黒線ハ。山趾の四方を擴ぐる所を顯す者とし。其長く續きたるは。これを嶺或ハ山脈と稱ふ。即相連りたる山岳あり。

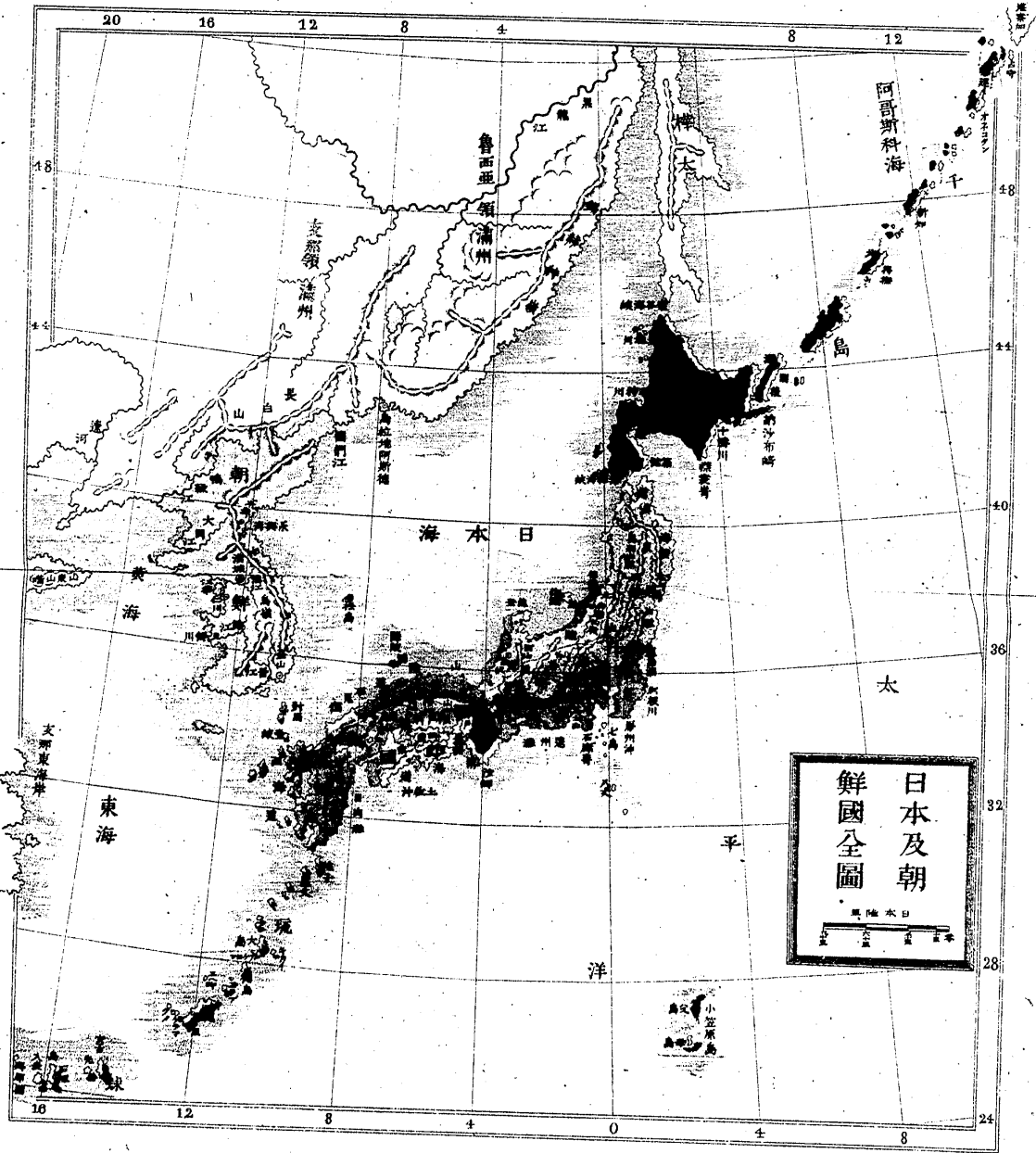
但余が示す所の地圖ハ。汝兒童の理會に入り易きを旨とせる略圖にして。固より測量圖の種類に非ざれば。山脈の如きも。唯主眼なる山岳の連りたる所を示

し。他いろいろを略せり。汝これを見て。某の地より。此山脈より外よ。一の山岳ふしと思ふこと勿き。

地圖中。黒線の蜿蜒せらる者ハ。是江河あり。黒點を亂打し。沙を撒らまふ如き者ハ。沙漠とて。草木生ぜざる沙原あり。圏線内よ。黒點を打ちたるハ。都會よし。其圏の二重ある者ハ。首府の符あり。首府とい。其國の政府の在る所と云ふ。

但江河及都會の如きも。亦唯主眼ある者のみと。記載せる者と知る可し。





日本及朝鮮國全圖  
 日本陸地  
 五里 一里 五里 一里

1. 日本及朝鮮國全圖 2. 日本陸地 3. 五里 4. 一里 5. 五里 6. 一里

第七章 日本志

余意ふる。世界の國ハ多しと雖。汝兒童の尤愛する國ハ。汝ガ自國ハ若く者ある可し。殊ハ同國ハ住める人民ハ。交通尤繁ク。關係甚密あるを以て。自國の志ハ。委くこれヲ學ぶこと。尤肝要ありとん。

故ハ余ハ。各國志の談話を我國より始め。且委く其志を語らんとす。汝數月の間。勉めて余ガ語る所の事々聽け。既ハ我國の志を終ふるの後ハ。余ハ直ハ外國志の談話ヲ移り。汝ハ其珍奇愉快ある事實を語らんとす。

汝ハ定めて我國の名を知るとるあらん。前ハ示を所

の地圖を見よ。即我國ハ亞細亞東方の數大島位を  
るぞ見ん。蝦夷中土四國九州及琉球ハ皆其部内よし  
て。これぞ總稱して日本と云ふことハ。意ふは汝が能  
く知る所あり。

地球儀を  
以て指示  
せよ

我國の東ハ渺茫として極まらざる太平洋なり。汝  
これぞ越えて東に進まば。遂に亞美利加に達を可し。  
北ハ日本海と稱する大海なり。此海を隔てて相對  
する國ハ朝鮮及魯西亞の滿州と云ふ。西ハ大海なり。こ  
れを東海と稱ふ。即支那と稱する國の東の海あり。

我國の地形ハ狭くして長く。蝦夷島の東北の端より。  
九州の西南の端に至るまでハ。長凡五百里なり。蝦夷

島の東北ハ。尚千島諸島斷續して。堪察加の半島ハ  
密邇し。九州の西南ハ。琉球諸島散布して。臺灣島ハ

附近し。又南海ハ。小笠原島と稱する一羣の島嶼ハ

地勢ハ。中土の中部ハ。坤艮の方位に互なる三大山脈  
あり。數多の高山此間に秀でて。地面最高し。其東山脈ハ。  
更ニ二脈ハ。分きて。遠く北に連る。西山脈ハ。南に走  
りて。南海に迫る。中土の西部及四國九州蝦夷の内部ハ  
も。各數派の山嶺ありて。屈曲連延し。國內到る處ハ山  
岳多し。

富士山ハ。我國に在りてハ。最善く人は知られたる名

新編地理 卷之八

山あり。此山ハ東海の表ニ聳エ。形恰播盆セ倒ニ置けるガ如ク。雪降り積る時ニハ。其觀更ニ棒砂糖の山ニ似たり。其畫ハ。顧ふニ汝屢これを見たるふらん。

琵琶湖ハ。殆中土の東部と西部の高地セ隔つる凹處にして。其形琵琶ニ似たり。湖とハ。陸地の凹處ニ湛えたる水の體ニテ。洋海の潮の通る所あり。

前ニ説きたる如ク。内地山岳多キニ因リ。川流甚多シ。雖地形狹キニ以テ。皆長流セ爲キニ至ラズ。然キトモ。中土の利根信濃及木曾川蝦夷の石狩川等ハ。其流頗大ニ。其谷ハ。平野頗廣シ。平野トハ。廣クシテ平アル地面の義ニシテ。或ハ平原ト稱スルコトアリ。

我國ハ。温帶の中部ニ在ルニ以テ。氣候甚熱ウク。又甚寒ウク。余ガ世界の談話ニ於テ。汝ニ語リタル温帶四季の變化ハ。恰我國氣候の實況アリ。地味ハ一般ニ肥沃ニシテ。農業盛ニ行ケル。

産物ハ。穀物魚類獸類材木果物礦屬等。人生ニ必用ナルものハ。概スレバ。茶生絲絹帛陶器漆器等ハ。外國輸出品中の主眼アル者アリ。中にも漆器ハ名譽の産物ニシテ。西洋人ハ。これセ日本ト唱フ。又多く酒セ産まレども。余等ガ爲メハ。全く無用の物ナリ。

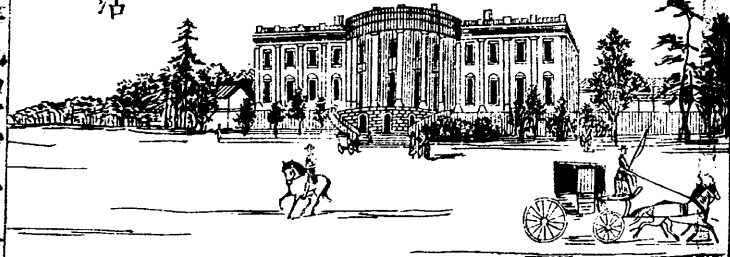
我日本ノ人口ハ。凡三千四百三十八萬八千餘ナリ。世界中人煙稠密アル地方の一アリ。人民中華族士族平



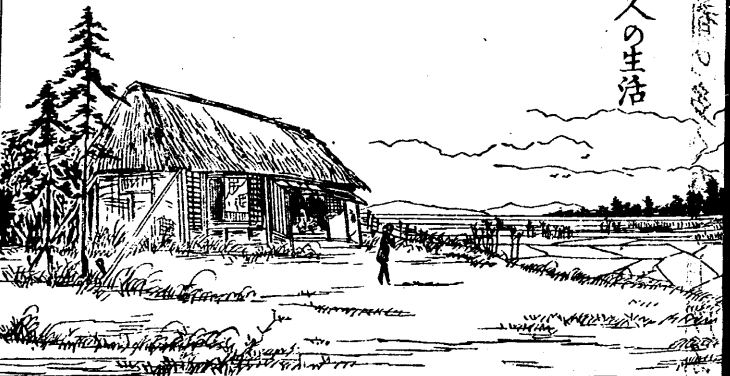
民の等級を知ることは、汝既にこれを知りて聞きたるありん。然まども人間は、族高きとて貴きとて、知識を知るを以て貴きあり。

我國の都會に住する富貴の人。石造或は木造の美麗清雅ある家屋に居り。絹布或は毛布の輕暖ある衣裳を著け。外に出づる時は、袴羽織を著け。帽を戴き。靴を穿ち。車馬に乗るを行く。然るも田舎間貧賤の人。至りては、卑矮の白屋に居り。四壁は粗雜ある粘土にて造り。屋の掩ふは茅或は藁を以てし。甚しきは板にて床も張ること能はず。蓆を地面に敷きて座する者あり。木綿の鹿服を著け。行く時は、半纏股引を著

富貴人の生活



貧賤人の生活



け。頭は笠或は手巾を被り。足は草鞋を穿つて常とて富貴人と貧賤人の生活の相異なること。斯の如し。其不幸不幸果して何如ぞや。然るは此富貴と貧賤とは畢竟智識の高下の外面に現れたる者は過ぎば。少年の人。これを見て。自奮て學問を修め。智識を研ぶに在る可うとざるあり。

我日本の全國は畿内東海道東山道北陸道北海道山陰道山陽道南海道及西海道の九部は大別するを常とす。畿内は中土の殆中央ある一地方あり。汝地圖中は紅色は彩色せる地方を看ん。是即畿内あり。此地方は昔より我國の首府即帝都の多く在りし所なるを以て畿内の稱あり。他の八道は皆これを中心として分割したる者あり。

即地圖中を示すの如く。畿内の東は在りて海を帯びたる地方を東海道とし。其内部は在ると。東山道とて然まども其東北部ある奥羽の地は。其は海を帯びたり。又東山道は併びて北海は面を帯びる地方を北陸道と稱へ。北海中は在る蝦夷及千島は北海道と稱ふ。

中土の西部即畿内の西ある地方は。一帯の山脈に在ることあり。既はこれ汝は語たり。此山脈の北ある地方は山陰道として。南あるは山陽道あり。畿内の南は接して海を帯びたる地方。及南海中の四國。其他の島は。

これと南海道と稱へ。九州及附近の島々ハ。日本西海中の一地方あるを以て。これと西海道と稱ふるあり。然る小畿内及八道の内ハ。更ニ州と稱ふる小別あり。其數凡八十五あり。然まども。余ハ暫く畿内及八道の大區別は従ひ。我國の地理の大略と汝ハ語らんと。尤余ハ汝ハ學力進歩して。他日余ハ各州志の詳細ふる談話と。聽くは至らんことと期望するあり。

新撰地理小志卷一

地名及人名讀例

蒙古人	高加索人	以日阿比人	馬來人	印甸
閣龍	阿西亞尼亞	維多利亞	哥拉罕	遠達爾比
魯西亞	支那	滿州	堪察加	黑龍江
崑崙山	喜馬拉山	貌利太	尼羅河	尼日爾河
哥里蘭	落機山	巴拿馬	安的斯山	三維斯島
新西蘭	錫赫特嶺	浦潮斯德	圖們江	長白山
鴨綠江	大同江	漢城	漢江	江華
永興灣	遼河	山東	麥加多	磨天嶺

卷二

日本五畿八道の地理と詳論し詳細ある銅鑄地圖と附す

地理 卷三

亞細亞大陸の諸國及歐羅巴諸國の地理と詳論し銅鑄地圖と附す

小志 卷四

亞弗利加北及南亞美利加阿西亞亞尼亞諸國の地理と詳論し銅鑄地圖と附す

山田行 元編輯 中地理書

此書の地理小志と卒業せる學生及晩學の初めて地理と詳論し銅鑄地圖と附す

山田行 元編輯 小學暗射地圖

此暗射地圖ハ地理小志及中地理書の地圖と一致せる者にして其書と教授するに必要の器械たり而して此暗射地圖ハ合衆國より名譽を得たる密查尔氏の暗射地圖を増補改正せる者たるを以て圖式の美麗なるハ論ふる地面の高低山嶺の高度に至るまで一として精詳ありざる者なし

卷ハ地理學の定則義例と論じ第二第三第四の卷ハ日本の地理と論じ第五第六第七の卷ハ亞細亞亞弗利加歐羅巴亞美利加及阿西亞亞諸國の地志より精密なる銅鑄地圖十六面と附す

明治十二年三月一日

版権免許 出版人

山形縣士族

山田仙

明治十五年四月再板御届

東京小田町三丁目十九番地

賣捌書肆

東京日本橋通	九屋 善七	東京上野西門町	品川 登羅
同 芝三島町	山中 市兵衛	加賀 金澤	益 智 館
同 横山町	出雲寺 萬次郎	同	近 八郎右衛門
同 日本橋通	稻田 佐兵衛	越前 福井	岡 寄左喜介
同 本町	柳河 梅次郎	同	森 下元次郎
同 銀座	山中 孝之助	西京 三條通	出雲寺 文次郎
同 馬喰町	石川 治兵衛	大坂 心齋橋通	九 善 支店
同 通油町	水野 慶次郎	尾張 名古屋	同
同	東生 龜次郎		